

在宅医療

いつまでも住み慣れた地域で暮らすために

問合せ 介護保険課（内線2686）

健康づくり課（☎54311561）

自宅などで医療を受けるといふ選択肢

在宅医療とは

在宅医療は、自宅などで病気の診察、治療、処置などを受ける方法です。退院後も治療が必要で、医療機関への通院が難しい患者さんなどが、住み慣れた場所で、日常的に医療や介護を受けながら療養生活を送ることができます。

在宅医療には、医師が日常的な治療や健康管理などを行う訪問診療や、歯科医等が口腔機能の維持・管理を行う訪問歯科診療、薬剤師が服薬指導を行う訪問薬剤管理などがあり、さまざまな専門職が在宅医療を支えています。

全国的に高齢化が進む中、病院のベッド数に限りがあることや、最期まで自宅での暮らしを希望する方が

増えるなど、在宅医療の必要性が高まっています。

在宅医療を受けるには

鴻巣市でも、介護サービスによる在宅での管理や指導の利用延べ回数は年々増加傾向にあります。

しかし、訪問診療を受けようと思っても、医療機関が対応していなかったり、医療機関によって訪問できる範囲（距離）が決まっているため、すぐに見つけることは困難です。まずは、健康に関する何を何でも相談できる「かかりつけ医」を持ち、いざというとき相談できる環境を整えましょう。



在宅医療・介護連携情報

在宅での管理や指導の利用回数
(鴻巣市内の介護サービスの延べ回数)



出典：介護給付（居宅療養管理指導）実績



かかりつけ医とは

日頃から健康に関することを何でも相談でき、身近にいて頼りになる医師のことです。

継続的に同じ医師の診療を受けることで、体質やアレルギー、日頃の生活習慣、これまでにかかった病気や、出やすい症状などを把握して予防することもできます。

万が一、専門的な検査や治療が必要になった場合は、症状に応じた専門医療機関を紹介してもらうことができます。紹介状を持って行くことで、スムーズに受診でき、自分で医療機関を探すよりも、よりの確により早く対処することが可能です。

かかりつけ医の探し方

健康診断や予防接種などの機会に身近な医療機関に行くことが、かかりつけ医を見つけるきっかけになります。また、医療機関の適切な選択を支援することを目的とした「医療情報ネット」や鴻巣市医師会のホームページから探すこともできます。

かかりつけ医が在宅医療に対応している場合もあり、対応していなければ適切な医師を紹介してもらうことができます。



医療情報ネット



鴻巣市医師会

かかりつけ医と良い関係を築く5つのポイント

- 1 かかりつけ医に伝えたいことはメモにして準備しましょう
- 2 より良い関係づくりには相互に責任と努力が必要です
- 3 かかりつけ医にこれからの見通しを率直に聞くことが大切です
- 4 受診後の変化について、良くなっても悪くなってもかかりつけ医に伝える努力をしましょう
- 5 治療効果を上げるためお互いに理解が必要です

在宅医療を受けたいと思ったときは？



自宅や施設などから
通院治療中



病院で入院治療中



かかりつけ医がいる

はい

いいえ

かかりつけ医が在宅医療をやっている

はい

いいえ

状況に応じて

かかりつけ医に
在宅医療について相談

鴻巣地区
在宅医療連携センター、地域包括支援センター
などに相談する



— かかりつけ医の仕事はどんなものですか

かかりつけ医の仕事は、患者さんに対して一つの診断を出せばいいというものではなく、患者さんの家族構成や生活環境、経済状況といったバックグラウンドを把握したうえで、その患者さんと今後どうしていくべきかを一緒に考えていくことだと思います。そのため、総合診療医やファミリードクターとも呼ばれています。

— かかりつけ医はどのように選べばいいですか

初診でかかりつけ医になるということはまずありません。何回か通院を繰り返していく中で、「この先生は信用できるな」「この先生なら自分の身体を任せられるな」と思えるお医者さんがいたら、かかりつけ医に選んでいいと思います。

— かかりつけ医として大事にしていることはありますか

患者さんのバックグラウンドをなるべく知るようにしています。例えば高齢の患者さんの血圧が高くて、家族関係についてよく知っていれば、「また家族とケンカしたの?」と確認することができ、高血圧が病気になるものか、ストレスによる一

自分を看取ってほしいと思える お医者さんを見つけること

かかりつけ医や在宅医療について、実際に鴻巣市で訪問診療を行っている大塚医院院長の大塚先生にお話を伺いました。

大塚医院 院長 大塚 健二 先生



時的なものなのか判断することができます。

— 在宅医療ではどのような患者さんを診ていますか

褥瘡（じよくそう・床ずれ）や脳梗塞、看取りといった患者さんが多いです。治療をする際は、患者さんと家族の考えをよく聞き、どうしてほしいかという点を大事にしています。

— 在宅医療の今後についてどのようにお考えですか

今後、高齢者の増加に伴って、在宅医療もどんどん増えていくと思います。かかりつけ医として担当している高齢の患者さんが、通院できなくなり、在宅医療に移行するケースが多いです。

また、コロナ禍以降、鴻巣市の自

鴻巣地区在宅医療連携センター

コーディネーター 伊藤さん

患者と医師をつなぐ

鴻巣訪問看護ステーションで26年間、訪問看護師として働いています。平成28年に鴻巣地区在宅医療連携センターが設置されてからは、患者さんと医師をつなぐコーディネーターとしても働いています。

コーディネーターとして大事にしているのは、丁寧によく話を聞いて、患者さんが何を必要としているのかくみ取ることです。

ただ医師を紹介するのではなく、その患者さんがどんなことに困っているのか聞き取ることで、患者さんの抱えている問題の本質に気づくことができ、結果的に患者さんの病状や性格に合った医師を紹介できることにつながります。しかし、「今、具合が悪いのですぐに来てくれる先生はいないか」という相談は、対応が難しいです。

自分の最期を考えておくこと

日本人は縁起でもないといつて、人生の最期について考えるのを敬遠しがちです。しかし、元氣



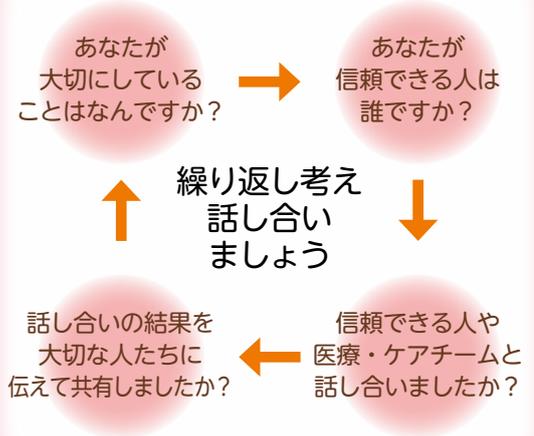


もしもの時のために 人生会議

だれでも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを、自分自身で前もって考え、繰り返し話し合い、周囲の信頼する人たちと共有する「**人生会議 (ACP: アドバンス・ケア・プランニング)**」をしておくことが重要です。



エンディングノート

「終活」という言葉をご存じですか？

終活とは、自分の死を意識して、より良い最期を迎えるための準備のことです。

エンディングノートは、自分の人生を振り返るとともに、終末期や死亡時の希望など、残された家族がさまざまな判断や手続きをする際に困らないよう、必要な情報を書き残すためのものです。

最期まで自分らしく生きるため、残される家族のためにも、エンディングノートを活用してみましょう。

※現在、エンディングノートは個別に配布していません。必要な方は市HPからダウンロードしてください



市HP



出前講座参加グループ募集

- 募 集 象** 2グループ（先着順）
鴻巣市内の会場・駐車場を確保でき、15人以上受講できるグループ（市内在住の方）
- 講 師** 大塚健二先生（大塚医院）又は
竹内幾也先生（たけうちクリニック）
- 内 容** 在宅医療、人生会議とは
看護師・保健師による個別健康相談（血圧測定など）
- 費 用** 無料
- 所要時間** 1時間程度
- そ の 他** 参加者にエンディングノートをプレゼント
- 申 込 み** 平日9時～17時に電話又はFAXで鴻巣地区在宅医療連携センター（☎594-6912・FAX594-6914）



▲診療のための器具を取りそろえた訪問セット

在宅で最期を迎えたいという、看取りを希望する患者さんが増えてきている印象があります。

在宅医療でお困りの際は、在宅医療連携センターに相談するのもいいと思います。コーディネーターの方が、患者さんと医師の間で調整をしてくれるので、医師としても助かっています。

— 市民の皆さんに伝えたいことはありますか

皆さんには、元気なうちに自身の将来について家族と話し合い、人生のどこかで一度、自分を看取ってほしいと思える信用できるお医者さんを見つけてほしいと思います。

なうちにこそ、自分がどんな最期を迎えたいのか考える必要があると思います。

家から出られなくなる前に、身体が動かなくなる前に、家族やかかりつけ医と自身の希望する医療やケアについて繰り返し話し合い、共有しておくことが大切です。

